

■小野アンナ 音楽教育家。ロシア革命で、亡命来日、早期英才教育の唱導者で、多くのヴァイオリニストほか逸材を育てた。

おのあんな
帝国議会始・1890＝
_ロシア帝国サンクトペテルブルグで、ブブノワ家の三女に生まれる。

父は、ロシア帝国の貧しい官吏であったが夢想家で、貴族出身で、語学と音楽に秀でた母の影響のもと、長姉はのちピアニスト、次姉はのち美術家になるなど、芸術一家に育ち、

日清戦争始・1894＝4歳：

日清戦争終・1895＝5歳：母から、ピアノの手ほどきを受け始め、

Bushidou・・1899＝9歳：

ピアノ国産化・1900＝10歳：ドイツについて、_ヴァイオリンを学びはじめる。

のちヴァンツェコフに師事。

日露戦争始・1904＝14歳：_ペテルブルグ音楽院入学、ホヴハンネス・ナルヴァルジャンに師事。

日露戦争終・1905＝15歳：

アヲヲ創刊・1908＝18歳：同音楽院教官だったリムスキー・コルサコフが死去。_優れた教師レオポルト・アウエルに師事し始め、

韓国併合・・1910＝20歳：この年、天才少年ヤッシャ・ハイフェッツが同音楽院に入学している。
大逆事件判決1911＝21歳：_優秀な成績で卒業。引き続きレオポルト・アウエルのもとで研鑽を重ね、

明治天皇没・1912＝22歳：

大正政変・・1913＝23歳：_フリーアーチストの称号を受ける。

第一次大戦始1914＝24歳：この年、小野俊一(のちロシア文学者・生物学者・昆虫学者・社会運動家)が、ドイツ留学をめざし、シベリア鉄道でモスクワについたその時、第一次大戦が勃発、やむを得ずペテルブルグ大学に留学、もともと田島六郎からヴァイオリンを習うなど、音楽に通じていて、音楽会に通うようになっていたが、

21ヶ条要求・1915＝25歳：_大学の講堂での慈善音楽会に出演して、聴衆の小野俊一に知られ、

民本主義・・1916＝26歳：_俊一が、日本文学を研究するロシアの友人から、日本語教育を委託され、そこに参加して、恋仲になり、

ロシア革命・1917＝27歳：_ロシア革命となり、日本大使館員は全員帰国、俊一は、ロシアに留まることを決意するも、困難になり、

本格政党内閣1918＝28歳：*あわただしく結婚、教職を辞して共に来日。

ベルリン条約・1919＝29歳：正教徒として、ニコライ堂に通う。夫は東大助手に。長男俊太郎を出産、
_日本では早期教育の重要性は全く知られていなかったが、田島六郎が娘の田鶴子を最初の弟子によこしてくれたり、日本女子大学第一回生で、日本少年寮の寮監になり、音楽教育に熱心だった奥宮加寿子が、寮内に音楽サークル{ルリロ会}を設けて指導を求められ、

原敬首相暗殺1921＝31歳：

関東大震災・1923＝33歳：一家で葉山の別荘に滞在中、大地震に遭遇。

護憲三派圧勝1924＝34歳：_ {ルリロ会}の記念すべき発表会。のち一番の弟子になった5歳の諏訪根自子が入門し、

円本時代始・1926＝36歳：

共産党事件・1928＝38歳：*のちにヴァイオリン教育で世界的に知られることになる鈴木鎮一が帰国してきたりして、広く知られるようになり、入門者が続々とでてくる。

海軍軍縮条約1930＝40歳：小野アンナ門下生演奏会演奏会。

満州事変・・1931＝41歳：

五一五事件・1932＝42歳：_もう一人の天才少女巖本真理が入門、

もともと学者肌のため合わなくなっていた夫俊一との関係もうまくいかなくなるなか、長男に、音楽の早期教育をほどこし、アメリカのジンバリストの指導を受けさせるべく、夫を置いて渡米を考えるうち、

国際連盟脱退1933＝43歳：俊太郎が虫垂炎で夭折、その悲しみを夫と共有した後、

芥川直木賞始1935＝45歳：*俊一と協議離婚。その後も、小野アンナ名義でヴァイオリン教師を務め、

日中戦争始・1937＝47歳：

日米開戦・・1941＝51歳：

創価学会検挙1943＝53歳：小野アンナ先生在日25年記念提琴音楽会。_毎日音楽コンクール審査員となる。

年金+総武装1944＝54歳：

敗戦・・・1945＝55歳：

新憲法公布・1946＝56歳：_武蔵野音楽大学教授に就任。教鞭をとるかたわら、請われて桐朋学園子供のための音楽教室、同高等学校音楽科・同短期大学でも指導、

新憲法施行・1947＝57歳：早くも、これらの門下生による演奏会。

三大事件・・1949＝59歳：小野アンナ女史滞日三十年記念謝恩演奏会とメモリアル・コンサート。雑誌{音楽}に寄稿した文によれば、

独立回復・・1951＝61歳：_この年までに持った弟子の数は2000人近くになっていて、

TV放送始・・1953＝63歳：

55年体制始・1955＝65歳：_ {門下生教室ヴァイオリン演奏会}が発足し、以後、毎年開催、

なべ底不況・1957＝67歳：小野アンナ門下生による丘理子渡米歡送ヴァイオリン演奏会、

この間、元夫の俊一は結核が再発して病床に臥すようになっており、

小野アンナ女史楽壇生活五十年記念・謝恩演奏会、斎藤秀雄指揮桐朋学園オーケストラのもと、諏訪根自子と巖本真理が、バッハの「2つのヴァイオリンのための協奏曲」を演奏、

姉ワルワラがソ連に帰国し、かつての夫俊一も死去したこともあって、自らも帰国を考えるようになり、

美智子妃・・1959＝69歳：_音楽教育に貢献した功績により勲四等瑞宝章。

安保闘争・・1960＝70歳：*巖本真理、諏訪根自子による「小野アンナ女史を送るヴァイオリン演奏会」が開かれ、ソ連アブハジア民族自治共和国(グルジア北隣)スフミに帰国。スフミ音楽院教授に就任。以後姉のワルワラと共に暮らす。

タイタイ病始・1961＝71歳：翌年、_「ヴァイオリン音階教本」が出版され、理論的・体系的なヴァイオリン教本の一つとして、日本のヴァイオリン学習者に愛用されている。

全国総合計画1962＝72歳：

この間、_脳軟化症になり、

ドルショック・・1971＝81歳：

革新大敗北・1979＝89歳：_没した。

「自分は教育者」という信念から録音の類は一切残していない。女性ヴァイオリニストに限らず、商業音楽の作曲家三木鶏郎など、幅広い逸材を世に送り、音楽大学の教授や指揮者として活躍する人物も多い。

小野アンナ記念会編「回想の小野アンナ」, Wikipedia,